

## レビューシート（指標点検型）

様式 2

レビュー項目 (事業名)	県立大学授業料等無償化事業				部(局)	総務部				
					所管課	教育課				
					担当班	大学振興班				
					連絡先	078-362-3128				
開始年度	令和6年度	終了年度	—	関連計画等	—					
事業区分	<input type="checkbox"/> 国補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 県単独事業									
実施方法	<input type="checkbox"/> 直執行 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他( 交付金 )				実施主体等	公立大学法人				
事業目的	兵庫の若者が、学費負担への不安なく安心して希望する教育を受けることができる仕組みづくりのため、高等教育への支援を先駆的・安定的に実施する。									
事業概要	県が設置している県立大学（兵庫県立大学、芸術文化観光専門職大学）について、県内在住者の入学金及び授業料を学部、大学院ともに所得に関わらず無償化する <input type="radio"/> 県内在住者に対する入学金(282千円)及び授業料(535.8千円)を免除する ※ 在学生と新入生との支援格差を考慮し、在学生（高学年）より段階的に実施する <input type="radio"/> 令和6年度から運用開始（令和8年度完成予定） <input type="radio"/> 令和7年度 授業料（学部2年～4年、大学院全学年）、入学金（大学院） <input type="radio"/> 県立大学授業料等無償化基金の設置									
令和7年度当初予算	1,380,629 千円		(国庫)	0 千円	(特定)	1,380,629 千円	(起債)	0 千円	(一般)	0 千円
評価指標	指標名	6年度実績	7年度目標	8年度目標	最終目標【年度】	設定の考え方				
	成果指標(アウトカム指標①)									
	県立大学における県内生の入学志願者数(単年度目標)	3,839人	3,700人以上	3,700人以上	3,700人以上【8年度】	【設定の考え方】 学費負担への不安なく安心して希望する教育を受けられる者の増加を成果とし、全国的に志願者数が減少する中、無償化公表後(R5)の県内生の入学志願者数の維持を指標に設定 【目標値の考え方】 (芸術文化観光専門職大学含む) 無償化公表後(R5)の県内生の志願者数並				
	成果指標(アウトカム指標②)									
	県立大学の奨学金貸与月額(単年度目標)	74百万円	87百万円	78百万円	52百万円【11年度】	【設定の考え方】 奨学金の活用が減少することを成果とし、奨学金貸与月額を指標に設定 【目標値の考え方】 (芸術文化観光専門職大学含む) ①無償化前貸与月額103百万円(R6.3月) ②無償化された学部1年生が4年生となるR11年度に、貸与月額を半減(※)させることを最終目標に設定 ※県内生割合(約50%)並 ③R5～R11の6年間で段階的に縮小(103-52百万円)÷6年=年約9百万円減				
指標	成果指標(アウトカム指標③)									
	県立大学のインターンシップ関連科目(キャリア教育)履修者数	799人	800人	900人	1,300人【12年度】	【設定の考え方】 無償化を機に、県内での就職に関心のある学生が増加することを成果とし、インターンシップ関連科目履修者数を指標に設定 【目標値の考え方】 ①全学生が、少なくとも1回はインターンシップ関連科目を履修する ②次期中期計画(R7～R12)の最終年度を最終目標年度とする				
	成果指標(アウトカム指標④)									
県立大学の県内就職率(単年度目標)	32.5%	33.9%以上	34.5%以上	36.1%以上【11年度】	【設定の考え方】 無償化を機に、県内での就職に関心のある学生が増加することを成果とし、県内就職率を指標に設定 【目標値の考え方】 ①過去5カ年(R1～R5)最高値36.1% ②無償化された学部1年生が4年生となるR11年度を最終目標年度とする					

	指標名	6年度実績	7年度目標	8年度目標	最終目標【年度】	設定の考え方
評価指標	成果指標(アウトカム指標⑤)  県立大学の地域連携事業の実施件数(単年度目標)	1,620件	1,620件	1,620件	1,620件【11年度】	【設定の考え方】 大学と地域との連携の重要性が増している中、無償化を機に、地域への愛着や地域貢献に関心を持つ学生が増え、地域との連携活動（フィールドワーク等）に主体的に取り組むことで、県立大学と県内の各地域との連携事業数を維持することを成果とし、県立大学の地域連携事業の実施件数を指標に設定 【目標値の考え方】 （芸術文化観光専門職大学を含む） ①無償化導入後のR6実績並の実施件数を維持する ②無償化された学部1年生が4年生となるR11年度を最終目標年度とする
	活動指標(アウトプット指標①)  無償化PR活動回数(単年度目標)	115回	100回	100回	100回	【設定の考え方】 無償化を進学先検討の要素としてもらうため、制度を広く周知 【目標値の考え方】 （芸術文化観光専門職大学含む） R5実施の学校訪問（50回）やオープンキャンパス（50回）回数並
指標	終期設定	有（ ） ・ （無）				
	改善基準					
外部委員会意見	<p>・「授業料等無償化」という手段が事業名になっており、目的が見えづらい。本来の目的は「兵庫の若者が、学費負担への不安なく安心して希望する教育を受けることができる仕組みづくり」であり、事業名は目的を反映すべき。</p> <p>・キャリア教育や地域貢献などの指標が追加されているが、事業目的とアウトカムとの整合性が不十分のため、事業目的も追加で書き換えるべき。</p> <p>・現在のアウトカム指標が無償化対象学生に限定されていないため、無償化対象学生に限定したアウトカム指標の設定が望ましい。</p> <p>・新入生アンケートなどを活用し、進学動機や地域定着の傾向を把握することが重要であるため、実施を検討していただきたい。</p> <p>・地域貢献やキャリア形成を通じて、大学の個性や魅力を高めるべき。「無償化」だけでなく、「ここでしかできない学び」や「地域との連携」を前面に出すことで若者の地元定着を促進し、施策の統合的展開を図ってはどうか。</p> <p>・無償化対象学生の行動（履修・就職・地域活動）を追跡し、アウトカムを取らなければ、この事業の正しい成果を把握することはできないのではないか。目標に合った成果のデータを取る仕組みを組み込んでいかなければならない。</p>					
見直し結果						
<p>・事業名は一定浸透しているため変更しないこととし、目的については丁寧に周知していく。</p> <p>・アウトカム指標②、③、④について、無償化対象学生に限定した指標の設定を検討する。</p> <p>・本事業は、若者世代の兵庫への定着を目的とする若者・Z世代応援パッケージの主要事業であることから、入学時・卒業時アンケートや卒業後の追跡調査等も活用しながら、進学動機、地域連携事業、県内就職・定着等についても把握し、適切にモニタリングを行う。</p>						